

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所きらめき読谷				公表日		令和8年 3月 31日	
環境・体制整備	1	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
		利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	医ケア児のベッド配置含めて、歩行器や車いすで移動も出来るように広いスペースを確保するようにしている。	狭く感じることはない。			
環境・体制整備	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	2	予定シフト配置は出来るが、予定外の休暇取得時に日によって不足する時もある。	予定の段階ではシフト体制を整えるが、急な有給休暇や欠員を補うには法人内での応援体制を考える必要がある。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	立ち入ってほしくないスペースは簡易な仕切りを使用している。手洗い場はこどもの身長に合わせて3段の踏み台で工夫している。	こども目線で視覚的に色や境界線など分かりやすい表示を支援するスタッフの気づきで改善したい。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	清掃は丁寧に行っているが窓が多く清掃する箇所は多くある。自然豊かで外壁や庭では時期により虫の発生が見られ、防虫剤を使用中。	特に夏場はサッシの隙間や玄関出入り口から小さな虫が入ってくることもあり、事前対策と駆除が必要。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	相談室を個室として使用出来る。またはパーティションで仕切り個別の場所を作っている。	相談室は常に使用できる状況ではない為、必要に応じて個別スペースを確保する環境はある。			
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	2	事業所会議で半期ごとに年間の振り返りを実施している。	事業所会議に参加できないスタッフからも率直な意見を聞く時間調整が必要。			
業務改善	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	年に1回義務化されている事業所評価を実施している。	面談や直接の聞き取りで本音も丁寧に聞き出して、ケース会議で定期的に職員間で情報共有の時間をつくりたい。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	年1回または事業所会議や普段から意見を発言しやすい雰囲気を作っている。	個々の意見を聞き取り、現状の代替案を上げ徐々に業務改善に向け取り組んでいる。勤務時間内に完了出来る内容を模索中である。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	5	法人内で他事業所の上司に定期的に相談し評価アドバイスを貰っている。	委託アドバイザーにより改善策を頂く体制はあるため、活用したい。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	毎週15~30分社内研修動画が配信され各自で受講できるシステムがある。	社外研修も受講したスタッフが簡潔に報告するが、パートや時短勤務のスタッフとの情報共有は掲示のみとなっている。			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	法人HP事業所ページに公表している。	適時更新が必要。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	保護者や支援の中からアセスメントを取り、現状課題を分析して計画書を作成している。	本人から聞き取れない時は小集団や個別の生活自立度や行動場面および関係機関からの情報を含め多角的なアセスメントの必要がある。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	支援する他職種で情報共有して、子どもの最善の利益を確認して共通理解を図るようにしている。	時差勤務やパート職員など多くの職員がケア会議に参画して話し合う時間の調整が必要。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	ファイリングして、いつでも閲覧しやすい様にしている。	計画以外の支援になることもあるが、計画書を再確認して計画に基づいた支援になるようコミュニケーションを図ることは必要。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	基本はADLや社会性を評価するが、日々の行動観察でインフォーマルなアセスメントをすることが多い。	定型発達の基本動作や生活動作、食形態、言語面を専門的視点から、多職種でアセスメントを共有する事も必要。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	重心、医ケア児の体調管理面から地域支援、地域連携は積極的に行ってないため、無理なく出来ることからはじめています。	本人支援、家族支援になるが、移行支援については保育所や幼稚園、就学を見据えて自立支援を継続的に行い、関係機関に情報提供を丁寧にしたい。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	新年度が始まる前に1年分を月別に掲示板書き込みで活動募集をしている。	主に活動表を作成する保育士・児童指導員が中心となり立案しており、チーム全体でミーティングを持つ時間の確保が課題。			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	決まって取り入れるプログラムや季節毎の行事は固定化しやすい為、内容は職員間でアイデアを出し合っている。	今後も情報を集めてマンネリ化しない様に新しいプログラムをチームで検討し取り入れていく意識は必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	月間活動計画の中に集団と個別活動を組み込んでいる。各児童の課題に応じた個別支援内容を掲示している。	土曜日など平日と比較して人員体制や時間にゆとりのある日は継続して個別活動中心にしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	朝礼で活動内容を確認して時差出勤もあるため当日リーダーと活動担当者が中心に他職種で連携して支援を行っている。	朝礼に参加できない職員へはスムーズに役割分担して活動が行えるようにコミュニケーションを密にすることは課題。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	6	時差出勤や送迎から戻る時間により退勤時間が異なる為、翌朝共有または、個別に振り返りした意見を管理者が聞くようにしている。	支援体制で気になったことに対して、朝礼や事業所会議で共有し改善策をみんなで話し合う必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	日報に個別に記録を取り、モニタリング会議や課題は朝礼やケア会議で共有して検証し改善につなげるようにしている。	個別支援課題のポイントを記載する事と、すぐに改善策を提起しミーティングの時間を確保する習慣づけは必要。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	最低6か月に1度モニタリングをして、保護者や関係機関の意見も取り入れた見直しをしている。	出来る限り数値化し客観的な評価出来る具体的な目標設定をする必要がある。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	児童発達支援管理責任者や医療的ケア児においては看護師、保育所へは可能な限り専門職も同席するようにしている。	児童発達支援管理責任者以外でも、そのこどもの状況をよく理解した職員が参画できる体制を整えたい。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	中部保健所から保健師の訪問を受け、災害時の体制確認など情報共有した。治医指示書や入院後は退院サマリーを頂いている。	送迎時に幼稚園の担当と連携。就学に向け情報提供書を教育委員会に提出しているが、担当者の事前見学に丁寧に対応していきたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	いつでも併用利用や移行が出来るように、自立支援の意識を持ち、必要に応じ関係機関に情報提供を行っている。	保護者の意向を汲みながら、現状報告し可能な限り支援内容を分かりやすく伝え、写真など視覚的に分かりやすい情報提供をする必要はある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	主に担当者会議で身の回りの自立度や集団生活などの社会性を伝える様にしている。	簡単でも机上課題や学習面の状況も評価して、情報提供ができるように取り組みたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	6	療育センターで実施されていることは把握しているが実際に実施したことはない。	利用時の通院している医療機関から相談支援も計画的に実施する必要がある。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	7	必要性があり計画にあげているが、体調管理や体制上積極的な実施に至っていない。	具体的な計画を立て個別や少人数でも体制づくりをして、保育施設交流と地域の子どもと活動する機会を企画したい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	送迎時の引継ぎや連絡帳を介して実施している。	日中はLINEメールを使用しているが、保護者からの情報も連絡帳では無く、お互いにon timeで状況を伝え把握する必要がある。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	ペアレントトレーニングは実施していないが、ライフステージでの移行について法人で保護者説明の案内をしている。	特性の幅が広く、プログラムも一概に全員に当てはまらない事もある為、共通課題に対するテーマ設定をする事は大事だと思います。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1	基本的には契約時に説明するが、その都度変更の利用内容で変更が出る時に確認をするようにしている。	事前に日程調整して面談時間に余裕を持って説明が出来るように改善したい。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	1	支援計画書を元に、日頃の保護者からの相談内容やこどもの意向を汲み取って計画を立て同意を得る様にしている。	保護者やこどもの意向に沿える計画を実施できるように常にモニタリングをしていきたい。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	1	書面を提示しているが、面談時間を設ける事が不十分である。	保護者に説明する際の方法や、面談時間を事前に調整できる体制づくりは課題。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	定期的ではないが、その都度、傾聴して解決につながる助言を、課題に応じて多職種で行うようにしている。	助言が不十分な時には関係機関を紹介するなどの情報を常につけておく必要がある。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	3	法人で年に1回開催し、事業所内では1回行った。	事業所単体で年に2回は開催したいが、法人全体の利用児者の作品展示会へ案内する機会も活用し、保護者の交流を増やしていく事が課題。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	1	相談や申し入れに迅速に対応できるようにしているが、体制が整わない現状もある。	人員体制で送迎支援など相談に応えることが不十分な時もあり、体制づくりが課題で可能な限り整えたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	法人のHPでブログを年間4回は配信している。活動予定表や連絡はLINEで発信している。	発信内容が閲覧しやすい方法を探索していく必要はある。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	1	ケア会議録や支援計画書を職員掲示板に掲示していることもあり、職員の写真などLINE発信をすることがある。	利用児の写真共有については同意書を取るが職員の顔写真についても同意を得る必要がある。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	1	ことばでの意思疎通を主にして表情やジェスチャー、現物を見せるなどの基本的配慮はしている。	絵カードは作成中でコミュニケーションの代替手段として増やしたい。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5	1度民生委員を招待し見学する機会を設けたが、近隣の地域住民へは行っていない。	庭での活動時に隣の方が来所されたり、声掛けや挨拶程度の為、こちらからの働きかけの方法を考えたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定するとともに、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	車両事故対応、嘔吐物の処理方法などのマニュアル掲示や防犯訓練を実施している。	周知は不十分な為、掲示やお知らせを積極的に実施したい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	地震と火災訓練は毎月の活動プログラムに取り入れている。	様々な人員体制、状況を想定しての訓練が必要。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	事前に服薬やてんかん発作時の対応方法を保護者と確認して実施している。	緊急時の対応マニュアルを作成しているが、看護師のみならず、全職員が行動できるように確認する機会を作ることも必要。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	アセスメントで把握はしている。栄養摂取方法により現在は該当するこどもはいないが、必要に応じて対応していく。	必要に応じて指示書に基づく対応をしていきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	AEDを設置して、訓練を実施している。	定期的な訓練計画を策定、実施することは必要。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	3	送迎時にこどもの緊急連絡先情報と搬送先となる主治医と医療機関を記載したファイルを作成して持ち込める様にしている。	家族への周知は不十分な為、取り組みを周知する機会を設けたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1	ヒヤリハットの報告は少ない為、情報共有は不十分だと感じている。	時間にゆとりを持ち、口頭での報告だけでなく、小さな報告書の作成と共有を重ね事故予防に取り組む必要がある。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	公的機関の研修への参加と伝達を行い、社内動画研修も受講する機会がある。	常に虐待につながる場面は小さなきづきから、誰でも報告できる組織体制づくりをしたい。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	0	トイレや玄関の鍵を施錠する場合はこどもの理解や安全面を重視して、保護者と情報共有をしている。	必要に応じて個別支援計画書に記載します。	